

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

黒田禎一郎

主 題：「基本に戻ることが大切」

－神の栄光－

テキスト：1 ペテロの手紙 3 章 13～17 節

### はじめに

- ・はじめに少し復習しましょう。私たちは第一ペテロの手紙を学んできましたが、この書簡はディアスポラのユダヤ人クリスチャン宛に書かれました。各地に離散したユダヤ人クリスチャンたちは、さまざまの苦難と迫害の中に置かれました。しかし、その苦しみの中にあっても、キリストへの信仰を持つ幸いを語りました。
- ・前回の説教主題は、「仕返しの渦にはまらないように」－祝福を受け継ぐために－でした。ペテロは、正しいことをしていながら苦しみに会った人々の問題を取り上げました。私たちは理不尽なことに会うならば、どうでしょうか。場合によっては、心が治まらず、仕返しの思いが出てくるのではないのでしょうか。そこで平安を失います。
- ・神に従っていながら、困難にぶつかるということがあります。悪の力は、私たちを悪の連鎖、「仕返しの連鎖」の中へ巻き込もうとします。それに巻き込まれると、事態を悪化させてしまうのです。
- ・そこで大切なことは、悪や仕返しの渦に巻き込まれないことです。そうではなく、私たちは愛、あわれみ、謙遜、平和の内を歩むべきです。それは実に幸いな人生であります。しかし、それを実践することは、難しいことです。
- ・今日のテキストも、同じテーマが新しい視点で語られています。2 点

### 大切なポイント

#### 1. 基本的な態度

##### 1) 良いことに熱心でありなさい

3:13 もしあなたがたが良いことに対して熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。

- ・クリスチャンの中で、「社会全体が欧米とは違い、クリスチャンとして生きるには、摩擦なしではやっていけない。」、と言う人がいます。また極端な場合には、「クリスチャン以外はみな悪魔の手先である。」と言い、闘争的となり身構えする人もいます。

- ・しかしペテロは、「**良いことに対して熱心でありなさい**」と勧めています。それは相手がクリスチャンであろうとなかろうと、好意を寄せてくれる人であろうとなかろうと「**良いことに対して熱心でありなさい**」と勧めました。そうすれば、

「**だれがあなたがたに害を加えるでしょう。**」と述べました。

- ・私たちは義のために苦しむことはあります。パウロは2テモテ3章12節でこう言いました。

**3:12 キリスト・イエスにあつて敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。 2テモテ**

- ・他の人と違うことをしていると、それだけでいじめられることがあります。インターネットが急速に発展した現在、SNSで誹謗、中傷が炎上することがあります。しかし、クリスチャンはそういう渦に巻き込まれないようにするところです。これが先ず大切なことです。基本的な態度は、あくまでも他の人に善を行うことです。

## 2) 幸いな人

**3:14 たとえ義のために苦しむことがあつても、あなたがたは幸いです。**

- ・イエスはマタイ5章10節で次のように言われました。

**5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。 マタイ**

- ・神に従っていながら、そのことのために迫害されるならば、それは幸いなことです。迫害されること自体、天の御国、神の国の市民であることの証拠なのです。
- ・聖書は、「幸いな人」は「良いことに熱心であること」を勧めています。私たちは何に熱心なっているのでしょうか。良いことに熱心になることは、基本的に大切な態度です。

## 2. キリスト者の信仰姿勢

### 1) 心がけること

- ・ペテロは、クリスチャンが心がける基本的な姿勢について、次の3点を述べました。

#### ① 恐れるな

**3:14 b 人々の脅かしを恐れたり、おびえたりしてはいけません。**

- ・イエスも同じようなことを言われました。 マタイ10章

**10:28 からだを殺しても、たましいを殺せない者たちを恐れてはいけません。むしろ、たましいもからだもゲヘナで滅ぼすことができる方を恐れな**

さい。

10:29 二羽の雀は一アサリオンで売られているではありませんか。そんな雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません。

10:30 あなたがたの髪の毛さえも、すべて数えられています。

10:31 ですから恐れてはいけません。あなたがたは多くの雀よりも価値があるのです。

- ・イエスは、たとえ生命を脅かすものであっても、恐れることはないと言われました。生と死を含みすべてを支配しているのは、神であり人ではありませんからです。しかも聖書の神は、私たち1人1人を大切に思い、御手の中に置いておられます。ですから、本当に恐れなければならないのは、天の父なる神であり、迫害する者たちではありません。

- ・恐れは私たちが生きる上で、最も大きな障害となります。恐れは、モチベーションを奪ってしまい障害となります。意欲を消失させ、意気消沈させてしまいます。初代時代の聖徒たちにも恐れがありました。

- ・皆さん。 私たちも大なり小なり、恐れを持つことがあります。皆さんは「不安と恐れ」について考えたことはありますか。クリスチャン精神科医である Dr. Grant Mullen は、次のように述べています。「不安は悪いとばかりは言い切れない。不安は私たちが危険から守るために意図された、神からの贈物である。子どもが危険かもしれない、慣れない状況に直面した際に持つ不安は、子ども時代の正常な要素である。しかし、サタンはその不安を上手に使い、不安のレベルを増幅させ、「恐れ」を生じさせます。それが限度を越えて増幅するならば、精神的に心を痛めてしまいます。」

- ・それは神のお心ではありません。神と私たちの正しい関係は、本来コスモス（秩序、調和）でした。しかしそれが崩れてしまった結果、不安が増幅し「恐れ」が強くなってしまいました。神との正常な関係には、このような「恐れ」は必要ありません。

- ・聖書には「恐れ」という名詞（単語）だけで、なんと600か所もあります。みことば次のように勧めています。 **詩篇118篇**

118:6 **【主】は私の味方。私は恐れない。人は私に何ができよう。**

**詩篇**

- ・聖書で一番はじめに出て来る「恐れ」の箇所は、創世記3章10節です。それは悪魔の誘惑に負けて、神の言葉を守らなかった最初の人間でした。

3:12 **彼（アダム）は言った。「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であることを恐れて、身を隠しています。」**

- ・イエスは次のように言われました。

#### ルカ福音書

12:4 わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、その後はもう何もできない者たちを恐れてはいけません。 ルカ

#### ヨハネ福音書

14:1 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」ヨハネ

14:27 「わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。」ヨハネ

- ・私たちが持つ基本的姿勢の第一は、「恐れるな」です。  
では、どうすれば良いのでしょうか？ ⇒神を信頼することです。

### ② キリストを主と崇めなさい (姿勢・態度)

3:15 むしろ、心の中でキリストを主とし、聖なる方としなさい。

- ・神は、迫害する者たちはじめ、すべてのものを支配しておられます。ですから、キリストを聖なるお方として崇めるよう勧めています。あのパウロとシラスはどうでしたでしょうか。彼らはピリピで不当にも拘束され、鞭で打たれ、牢獄に入れられました。しかし彼らは牢獄で主を賛美する歌を歌っていました。その結果、牢獄の看守一家が主を信じる者となりました。

(使徒16章19-34節)

- ・キリストを主と崇めること、それはキリスト者の大切な信仰姿勢です。  
では、どうすれば良いのでしょうか？ ⇒ 主を賛美することです

### ③ 弁明の用意をしなさい (備え)

3:15 あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしていなさい。

- ・「あなたは、どうしてクリスチャンになったのですか？」  
「クリスチャンは、何を信じているのですか？」  
「キリスト教で、救いとは何ですか？」
- ・このような質問を受けたら、私たちは何と答えるのでしょうか。  
「教会へ来てください」、あるいは「牧師に聞いてください」と答えるでしょうか。それも結構ですが、ペテロは「**弁明できる用意をしていなさい。**」と述べました。用意はできているでしょうか。
- ・しかも、単に弁明しなさいではありません。

**3:16** ただし、柔和な心で、恐れつつ、健全な良心をもって弁明しなさい。  
 そうすれば、キリストにあるあなたがたの善良な生き方をののしっている人たちが、あなたがたを悪く言ったことを恥じるでしょう。

- 弁明は言い訳ではありません。生意気な横柄な態度でもありません。また押し付けでもありません。自分の内にあるものをシェアすることです。しかし自分自身が全てが分かっているわけでもありません。人を救いに導くのは、雄弁でも説得力でもありません。主ご自身です。ペテロは「**柔和な心で、恐れつつ、健全な良心をもって弁明しなさい。**」と勧めました。
- 自分の弱さや失敗も含めて、正直に語ることです。そのような真摯で、正直で、謙遜な証しによって、悪口を言っていた人たちが、自分の態度を恥ずかしく思うようになるのです。弁明の用意をすることは、大切な姿勢です。
- では、どうすれば良いのでしょうか？ ⇒ 日々、主と交わりを持つことです（devotion で主との交わり）。用意は常日頃から、貯えられることです。

## 2) 神にゆだねなさい

**3:17** 神のみこころであるなら、悪を行って苦しみを受けるより、善を行って苦しみを受けるほうがよいのです。

- 苦しみには2つあると思います。
  - ① 自業自得の苦しみ：自分が行ったことによる苦しみです
  - ② 善を行って受ける苦しみ：ペテロは「**善を行って苦しみを受けるほうがよいのです。**」と述べました。
- ペテロは5章で次のように述べました。

**5:6** ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

**5:7** あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

- この世界は、神のお心から外れた結果、傷つき、病み、恐れ、混乱が支配しています。クリスチャンである私たち自身も利己的であったり、歪んだりすることがあります。教会の中の交わりでさえ、罪の影響から完全に自由ではありません。
- ですから、私たちは苦むのです。信仰を持っていない方から嘲笑されたり、悪口を言われたりします。しかし、それを喜んで負っていきましょう。もし自分に非があるならば、当然改めましょう。
- 心の中で主を崇め、機会があれば、キリストの救いを証しさせていただきましょう。苦しみの中にありながら、喜びと平安を持って生きている姿、

そこに神の栄光が現れます。神の栄光に光り輝くことができるのです。

## ま と め

主 題：「基本に戻ることが大切」

－神の栄光－

- ・ 今日、私たちは大切なことを聞きました。それは義のために苦しむことがあっても、そこは主である神が栄光を現れる所であることです。初代教会時代の聖徒たちは、さまざまな苦しみと迫害下にありました。
- ・ しかし、それは敗北ではありませんでした。なぜなら十字架にかかり復活してくださったイエス・キリストが、聖徒たちとともにおられたからでした。十字架信仰、復活信仰です。そこに私たちが生きる力があるのです。私たちは、今日生きるために大切なことを学びました。それは「基本に戻ることが大切」であることです。そこは神の栄光が現わされる所となります。
- ・ 大切な2点を覚えましょう。 **1 ペテロの手紙5章**

### 1. 心がける基本的姿勢

5:6 ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

### 2. 神にゆだねなさい

5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

\* God bless you